

人権・ハラスメント対策センター、ジェンダーフォーラム おススメの本

★タイトルをクリックしてください。立教大学 OPAC にリンクしています★

『マンガまるわかり ハラスメント』



野原蓉子（監修）、新星出版社、2020年

2020年6月施行のパワハラ防止法に対応していて、ハラスメントが、わかりやすいマンガと簡単な文章で紹介されています。何がハラスメントであるか、アウトとセーフという解説で理解しやすいと思います。飽きることなく最後まで読み進められ、読み終わると自然と理解できる本だと思います。

内山雅子（人権・ハラスメント対策センター専門相談員）

『同性愛は「病気」なの？ 僕たちを振り分けた世界の「同性愛診断法」クロニクル』



牧村朝子（著）、星海社、2016年

同性愛者が昔から区別されてきた事柄を、5つに分けて丁寧に説明しています。

①同性愛者という言葉ができる過程、②同性愛の理由を探した人々の話、③2度の世界大戦中に軍が同性愛診断に乗り出した理由、④同性愛者は人種のようなものなのだろうかを考えた人々の話、⑤現代の同性愛者の捉え方など、多方面からの見方が読者に深い理解を導く読みやすい本です。

内山雅子（人権・ハラスメント対策センター専門相談員）

『ハラスメントゲーム』



井上由美子（著）、河出書房新社、2018年

マルオスーパーのコンプライアンス室に持ち込まれるパワハラ、セクハラ、モラハラなどの相談の数々。秋津室長と室員の真琴は、社長と常務の思惑もからむ難題を解決できるのか！？笑いもスリルもありで、楽しみながらハラスメントの知識も増えるエンタメ企業小説。

尾崎啓子（人権・ハラスメント対策センター専門相談員）

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』



ブレイディみかこ（著）、新潮社、2019年

英国で元底辺中学校に通う「ぼく」の日常を、母ちゃんも一緒に悩み、考え、語り合う。たとえば、「共感」「他者の立場に立つ」とはどういうことなのか。多様性や差別をどうとらえるかという自分なりの視座を考えさせられ、何度も読み返したくなる大切な1冊。

尾崎啓子（人権・ハラスメント対策センター専門相談員）

『レスビアン・アイデンティティーズ』



堀江有里（著）、洛北出版、2015年

社会学、レスビアン・スタディーズとクィア神学の専門家である堀江は、「レスビアン」としての理解にアイデンティティ・ポリティクスというメスを刺し、自分の中に隠されていた未完の可能性を発見し、肯定していく。

ゾンターク、ミラ（ジェンダーフォーラム副所長／文学部キリスト教学科教授）

『壊れる男たち——セクハラはなぜ繰り返されるのか』



金子雅臣（著）、岩波書店、2006年

「なぜセクハラは無くならないのか？」と少しでも疑問に思ったことがある方はぜひ本書を読んでみてください。「加害者の言い分」を読み進めると「男が悪い、女が悪い」では片付けられない根本的な社会問題が見えてきます。

金儒振（ジェンダーフォーラム運営委員／国際センター）

『ジェンダーについて 大学生が真剣に考えてみた ——あなたがあなたらしくいられるための29問』

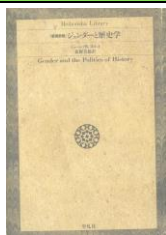


一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同（著）、佐藤文香（監修）、
明石書店、2019年

ジェンダー論を学んでいるけれど、友人たちからの疑問にすっきりと答えられないもやもやを抱えている学生たちが、皆で話し合っどう答えたらよいかを真剣に考えて書いた本です。ホップ・ステップ・ジャンプと三段階で解説されているので、ジェンダー論が初めての人にも、すでに学んでいる人にも役に立ちます。

横山美和（ジェンダーフォーラム事務局）

『増補新版 ジェンダーと歴史学』



スコット、ジョーン・W.（著）荻野美穂（訳）、平凡社、2004年

ジェンダーを「肉体的差異に意味を付与する知」と定義づけ、セックス／ジェンダーの二分法を見直し新たなジェンダー概念を提示しました。バトラーと合わせて読みたいですね。

横山美和（ジェンダーフォーラム事務局）

『介護する息子たち——男性性の死角とケアのジェンダー分析』



平山亮（著）、勁草書房、2017年

一見、介護の専門書ようですが、介護を通じて「息子としての男性」、すなわち男性の自立／自律に隠された無自覚な依存の問題を抉り出しています。近年、大注目の男性学の研究者である著者の言葉に、時折ギクッとしながら頁を捲りました。

片岡佑介（ジェンダーフォーラム事務局）